

【記入例集】知名町町制施行 80 周年記念事業補助金 申請書類イメージ

町民の皆様が「知名町町制施行 80 周年記念事業補助金」の申請を行う際の参考となる記入例です。

20 万円という限られた予算を「その日限りの思い出（消費）」で終わらせるのではなく、知名町の「次の 100 年に向けた未来の財産（投資）」へとつなげるためのアイデアと書き方のコツを盛り込んでいます。

※交付申請書は指定の「第 1 号様式」を使用してください。事業計画書および収支予算書は任意様式ですので、本例を参考に自由に作成いただけます。

【事例①】 交付申請書 記入イメージ

第 1 号様式（第 7 条関係）

令和 8 年 6 月 10 日

知名町長 今井 力夫 様

所 在：知名町知名〇〇〇

団体名：ちなの種 中学生チャレンジ実行
委員会

代表者：代表 ふりがな 知名 ちな たろう 太郎

連絡先：090-XXXX-XXXX

知名町補助金等交付申請書

令和 8 年度知名町町制施行 80 周年記念事業補助金について補助金等の交付を受けた
いので知名町補助金等交付規則第 7 条の規定により、関係書類を添えて下記のとおり申
請します。

記

1 補助事業の目的及び内容

町内の空き店舗を活用し、中学生が主体となって仕入れや接客を体験できる「駄菓子
カフェ」を立ち上げる。中学生に「自分たちの力で町を面白くできた」という成功体
験を提供するとともに、地域の高齢者との多世代交流の拠点を作る。

2 事業実施期間

令和 8 年 7 月 1 日 ～ 令和 8 年 10 月 31 日（予定）

3 補助金等の額

200,000 円

4 事業の計画内容

別紙「事業計画書」のとおり

5 その他

別紙「収支予算書」を添付

【事例①】 事業計画書 記入イメージ

事例①：中学生が店長！土曜日だけの「まちなか駄菓子カフェ」

（対象テーマ：未来世代の育成・交流 / 既存事業の発展）

事業計画書

団体名	ちなの種 中学生チャレンジ実行委員会
事業名	中学生が店長！土曜日だけの「まちなか駄菓子カフェ」
実施期間	令和8年7月1日 から 令和8年10月31日 まで
事業の目的 （取り組もうと思ったきっかけや 実施の目的、期待される効果等）	空き店舗を見ていて、自分たちで何か楽しいことができないかと思ったのがきっかけです。僕たち中学生が店長になって「駄菓子カフェ」を立ち上げることで、「自分たちで町を面白くできた！」という経験をしてみたいです。 また、駄菓子を買いに来るおじいちゃんやおばあちゃんたちとお茶を飲みながらお話しできる場所を作って、色々な世代が仲良くなれたらいいなと思っています。
内容	
具体的な事業内容及びPR方法 （実施場所及び実施体制を含む。）	【日時】毎月第2・第4土曜日 【場所】町内の空き店舗（家主さんに借りる許可をもらいました） 【内容】お店は自分たちでペンキを塗ったりしてDIYします。駄菓子売るだけでなく、お年寄りとお茶を飲みながら交流できるカフェスペースも作ります。 【PR方法】お店の前に手作り看板を置くのと、学校で友達にチラシを配って宣伝します！
参加者（対象者）の範囲 （ターゲット層）及び参加見込人数	主に小学生、中学生、そして近所に住むお年寄りの皆さん。 1日に30人くらい、合計で200人くらいの参加を見込んでいます。
地域活性化への寄与 （話題性、将来性、交流性、波及性等）	最初は僕たちの挑戦ですが、ここで学んだことを生かして、将来は町を面白くするリーダーになりたいです！ イベントが終わっても、このお店が「放課後のたまり場」や「お年寄りとおしゃべりの場」として定着し、簡単な会計などを引き継ぐことで、補助金なくても自分たちで続けていけるような仕組み（未来のインフラ）を残せるところがアピールポイントです。

【事例①】 収支予算書 記入イメージ

収支予算書

団体名	ちなの種 中学生チャレンジ実行委員会		
事業名	中学生が店長！土曜日だけの「まちなか駄菓子カフェ」		
総事業費	200,000 円		
補助対象経費	200,000 円		
補助金交付申請額	200,000 円		
区分	項目	金額（円）	積算内訳
収入	補助金	200,000	知名町 80 周年記念事業補助金
	自己資金	0	継続運営費は売上でまかなう予定
	合計	200,000	
支出	需用費	100,000	DIY 用木材・ペンキ代、初回駄菓子仕入、看板材料費等
	備品購入費	70,000	カフェで使う簡易レジの購入
	役務費	30,000	イベント保険料、チラシ印刷・郵送代等
	合計	200,000	

【事例②】 交付申請書 記入イメージ

第 1 号様式（第 7 条関係）

令和 8 年 6 月 10 日

知名町長 今井 力夫 様

所 在：知名町〇〇〇

団体名：知名の恵みマルシェ実行委員会

だいひょうしゃ のうぎょう はなこ
代表者：代表 農業 花子

連絡先：090-XXXX-XXXX

知名町補助金等交付申請書

令和 8 年度知名町町制施行 80 周年記念事業補助金について補助金等の交付を受けた
いので知名町補助金等交付規則第 7 条の規定により、関係書類を添えて下記のとおり申
請します。

記

1 補助事業の目的及び内容

農家が軽トラで集まり、車に乗ったまま地元の新鮮な野菜を買える市場を 1 日限定
で開催する。農協への出荷だけでなく、農家が町民と直接つながる新しい販売スタイル
を実験し、将来的な定期マーケット（朝市）のモデルケースとする。

2 事業実施期間

令和 8 年 10 月 1 日 ～ 令和 8 年 11 月 30 日（予定）

3 補助金等の額

180,000 円

4 事業の計画内容

別紙「事業計画書」のとおり

5 その他

別紙「収支予算書」を添付

【事例②】 事業計画書 記入イメージ

事例②：1 日だけの大変身！採れたて野菜の「ドライブスルー青空市場」

（対象テーマ：既存事業の発展・連携 / 地域の歴史・文化）

事業計画書

団体名	知名の恵みマルシェ実行委員会
事業名	1 日だけの大変身！採れたて野菜の「ドライブスルー青空市場」
実施期間	令和 8 年 10 月 1 日 から 令和 8 年 11 月 30 日 まで
事業の目的 （取り組もうと思ったきっかけや実施の目的、期待される効果等）	普段は農協に出荷するだけですが、直接町民の皆様 の声を聞き、知名の野菜のファンを作りたいと考え たのがきっかけです。 車社会の知名町で、高齢者や子育て中の方でも車に 乗ったまま気軽に新鮮な野菜を買える「ドライブス ルー形式」を実験し、町の新しい販売モデルを作り たいと考えております。
内容	
具体的な事業内容及びPR方法 （実施場所及び実施体制を含 む。）	【日時】10 月中の日曜日に 1 日限定で開催 【場所】役場または公民館の駐車場（利用相談済 み） 【内容】農家の軽トラを並べて、ドライブスルー形 式で野菜を販売します。80 周年記念の共通のぼり旗 を立ててお祭り感を出します。キャッシュレス決済 の試験導入も行います。 【PR 方法】回覧板や町の広報誌、SNS を活用して告 知します。
参加者（対象者）の範囲 （ターゲット層）及び参加見込人 数	主に町内の子育て世代や、重い荷物を持つのが大変 な高齢者の皆様。 1 日限定で 150 台（約 300 名）の来場を見込みます。
地域活性化への寄与 （話題性、将来性、交流性、波及 性等）	1 日限定の実験ですが、このルートとノウハウが確立 できれば、次回以降は補助金に頼らず「民間の定期 朝市」として自走させることが可能です。 高齢農家の生きがいと新たな収入源を創出し、町内 の小さな経済循環（地場産業の活性化）を生み出す 仕組みとして町に貢献します。

【事例②】 収支予算書 記入イメージ

収支予算書

団体名		知名の恵みマルシェ実行委員会	
事業名		1 日だけの大変身！採れたて野菜の「ドライ ブスルー青空市場」	
総事業費		180,000 円	
補助対象経費		180,000 円	
補助金交付申請額		180,000 円	
区分	項目	金額（円）	積算内訳
収入	補助金	180,000	知名町 80 周年記念事業補助金
	合計	180,000	
支出	需用費	100,000	共通のぼり旗・案内看板の作成費、安全 誘導用カラーコーン等
	使用料及び賃 借料	60,000	キャッシュレス端末レンタル料、会場用 テントのリース料
	役務費	20,000	交通誘導等の手配にかかる手数料・イベ ント保険料
	合計	180,000	

【事例③】 交付申請書 記入イメージ

第 1 号様式（第 7 条関係）

令和 8 年 6 月 10 日

知名町長 今井 力夫 様

所 在：知名町〇〇〇

団体名：高校生ボランティア部

代表者：代表 ふりがな デジタル でじたる 一郎 いちろう

連絡先：090-XXXX-XXXX

知名町補助金等交付申請書

令和 8 年度知名町町制施行 80 周年記念事業補助金について補助金等の交付を受けた
いので知名町補助金等交付規則第 7 条の規定により、関係書類を添えて下記のとおり申
請します。

記

1 補助事業の目的及び内容

地元の高中生や若者が、お年寄りに対してスマホの使い方（LINE やカメラ）をマン
ツーマンで教える相談所を開設する。世代間交流を図りつつ、町のデジタルデバイドを
解消し、行政のペーパーレス化の土台を作る。

2 事業実施期間

令和 8 年 7 月 1 日 ～ 令和 8 年 12 月 31 日（予定）

3 補助金等の額

120,000 円

4 事業の計画内容

別紙「事業計画書」のとおり

5 その他

別紙「収支予算書」を添付

【事例③】事業計画書 記入イメージ

事例③：スマホの神様あつまれ！孫世代が教える「お悩み解決相談所」

（対象テーマ：DX（デジタル技術）の活用 / 未来世代の育成）

事業計画書

団体名	高校生ボランティア部
事業名	スマホの神様あつまれ！孫世代が教える「お悩み解決相談所」
実施期間	令和８年７月１日 から 令和８年１２月３１日 まで
事業の目的 （取り組もうと思ったきっかけや 実施の目的、期待される効果等）	おじいちゃんやおばあちゃんがスマホを使えなくて困っているのを見て、私たち高校生がマンツーマンで教える場所を作りたいと思いました。 私たちが「教える側」として地域に貢献し、お年寄りとの交流を深めると同時に、町のデジタル化（情報格差の解消）のお手伝いをしたいです！
内容	
具体的な事業内容及びPR方法 （実施場所及び実施体制を含む。）	【日時】毎月第１日曜日 【場所】町内の公民館の会議室 【内容】「気軽にきてね」と書いたのぼり旗を立てて、私たち高校生ボランティアが参加者にお茶を出しながら、LINEの送り方やカメラの使い方などの悩みを個別に解決します。 【PR方法】公民館の掲示板へのポスター掲示や、回覧板での案内チラシで行います。
参加者（対象者）の範囲 （ターゲット層）及び参加見込人数	スマホの使い方が分からなくて困っている町内のお年寄り。 １回につき１０名、合計６０名程度の参加を見込んでいます。
地域活性化への寄与 （話題性、将来性、交流性、波及性等）	お年寄りの皆さんがスマホを使えるようになれば、将来的に役場からのデジタル通知（防災アプリやLINE申請など）がスムーズに届くようになります。 単なる交流イベントで終わらせず、町の「ペーパーレス化」や「業務効率化」というインフラ作りに貢献できるところが、この活動の大きな強みだと思います！

【事例③】 収支予算書 記入イメージ

収支予算書

団体名	知名高校生ボランティア部		
事業名	スマホの神様あつまれ！孫世代が教える「お悩み解決相談所」		
総事業費	120,000 円		
補助対象経費	120,000 円		
補助金交付申請額	120,000 円		
区分	項目	金額（円）	積算内訳
収入	補助金	120,000	知名町 80 周年記念事業補助金
	合計	120,000	
支出	報償費	60,000	講師役となる高校生ボランティアへの一律の謝礼（図書カード等）
	需用費	50,000	相談所ののぼり旗、案内チラシ印刷代、お茶・おしぼり等の消耗品費
	使用料及び賃借料	10,000	公民館の会議室使用料（複数回分）
	合計	120,000	